

あだたら

発行所 二本松市木ノ根 城山会
あだたら山の会
編集

八月十日(土)

八月山行・月山

報告 □□□ □

八月十日は月山に行くことになった。五時三十五分、道の駅安達下り線にて□□□□さん、□□□□さんと合流、五時五十八分、□□□□さん、□□□□さんとゴープマート方木田にて合流し、山行メンバーが問題なく、集合となり、六時に無事出発した。六時三十五分に東北中央道高速道路福島大笹生インターチェンジに進入。高速道路を走り続けて一時間半後、途中のパーキングエリアにて朝食と同時に休憩をとる。その後、山形自動車道を直進し、寒河江、月山方面の国道一一二号を通過、県道一一四号に入り、八時五十五分に月山の姥沢駐車場に到着。当日の月山付近の天気予報。それは晴天ではなかったが、気温もさほど高くなく、降水確率は低いと予想されていたので平和な山行になると思っていた。実際に着いてからは、涼しく気持ちよい風に癒されていた。九時十五分、リフトに乗り、九時四十分以降りに

すぐ見えるニッコウキスゲの花を見ながら歩いていった。しかしながら、歩き始めて三十分経過後、事件が起きた。急な大雨、別の場所から鳴り響く雷の音、今後の天気予報をスマートフォンで確認すると月山付近は、終日、悪化とのこと。まだ、十一時手前ではあったが、身の安全のため、リフトで下り、別のルートから行けるのかを考える。車中では、どこを走っても大雨で視界が悪い。十二時十分ごろに月山ビジターセンターに到着し、受付の係の方に他の方法で山行が可能か否か確認するが、厳しいとのこと。近くで昼食を終え、雨が弱まりかけたところで羽黒山有料道路を利用し、羽黒山の散策へ向かった。十三時十五分羽黒山に到着。残念なことに、ここでも車から降り、歩き始めようとした瞬間、大雨に巻き込まれた。その後、復路も往路と同様に福島へと戻った。今回は、参考記録としては残すことができなかった。



お土産に戴いた山形のサイダー



HP庄内観光サイトから

したが、記録よりも記憶に残るものとなり、貴重な体験をさせていただいた。▼当日夕方、□□□□さんから、午後五時過ぎに無事福島に帰って来た、どのメール戴きました(編集部)。

●編集部連絡先
二本松市木ノ根1-515
0243(22) 4245
渡辺 正

今年の福島県山岳連盟(□□□□会長)の「山の日記念清掃登山」は、磐梯山の西側、「ニッコウキスゲ」で有名な「雄国沼」カドデラの外輪山である、猫魔ヶ岳で四日(日)開催された。午前七時半、八方台登山口集合、猫魔ヶ岳を往復する予定。今年の夏猛烈な暑さが続く中、標高一二〇〇メートルの登山口は些か涼しい。登山道は大部分ブナ林、猫魔ヶ岳山頂まで



下山後 全員集合 当会メンバー全員

は一時間弱で到着。一四〇四メートルの山頂の廻りは全て雲の中。磐梯山山頂だけが頭を出していた。時間も早いので、伝説の「猫石」まで足を伸ばすことになった。三十分弱で大きな石の重なるピーク「猫石」到着。ここからは、薄雲を突いて「雄国沼」「雄国沼休憩舎」「雄国山」などが眺められた。

正午前には全員八方台登山口に下山した。集まった

ゴミは軽トラ荷台四分の一程度だった。県山岳連盟の会員など、合わせて三十人が参加した。



出発時の 集合写真、八方台登山口

【入会・退会案内】
▼□□ □□

八月四日(日)
県山岳連盟
山の日記念清掃登山
猫魔ヶ岳
報告 編集部

八月二十五日 (日) 籠山下登山道整備作業

報告 編集部



参加者勢揃い、勢至平分岐、14時半

安達太良山籠山下登山道で整備作業を行った。先月に引き続き今年二回目。この道は、奥岳登山口からロープウェイを利用しないで山頂に至る登山道で、かねて小径を辿り、近道だ。溶岩台地の勢至平の、灌木の林を抜ける道で雨で深く扶られ、歩きにくい。当会は以前から登山道に被

る灌木や笹の刈払い、滝を越える階段造り、足場になる「踏板」配置等を行っている。当日は七名の会員が刈払い作業を行った。登山道では黄色い「秋の麒麟草」や薄紫の「釣鐘人參」が咲き、足下には「蔓竜胆」の小さな蕾、「赤物」の実、白い「山母子」、まだ緑色だが、たわわな「山蒲萄」も見られた。

▼今回、事情があって奥岳外に車落として、奥岳の集合時刻に到着出来なかった。済みませんでした。余分な写真撮影やって、路



土手の上を刈払い



ハンノキ林で作業中



ヤマハハコ



アキノキリンソウ



ヤマブドウ

台風一過を期待し、天気も午前中は時々雨も風も吹き、温度下がりが半そででは寒いくらい、福島の三十五道からは考えられない。蒸気が吹き廻りは黄色の岩が



八月十七日 (土) 台風一過の東吾妻山

報告 □□□□

見え、大穴火口の上にも新しく出来た火口から蒸気を噴いている所があり、黄色い岩も確認することが出来る。姥ヶ原木道に入っても時々雨風、半そででは寒さイボが出来そう。雨風を避けるため姥地蔵まで足を伸ばす。昼食を始める頃は、青空も見え風も弱くなり東吾妻の山頂も見えるようになる。姥ヶ原分水界より東吾妻へ。登山道は笹が被りお盆前に刈払いした様だが、まだ被っている所もある。東吾妻山頂へ二時前に着く。山頂では三々四グループの登山者が吾妻連峰の山々、眼下に谷地平、磐梯山などの眺望を楽しんでいた。二時二十分下山開始。浄土平四時、予定時間より一時間遅れの下山となった。浄土平駐車場は有料で五百円、鎌沼から酸ヶ平小屋へは通行止め。鎌沼の水も少なく、浄土平の川も流れてない。姥ヶ原では、リンドウが咲き始めていた。

二〇〇八年七月三日

徒渉が辛い 幌尻岳

報告 □□□□

登山ガイドブックには、登山レベルが「ベテラン向け」と案内されている。北海道には百名山九峰あり、最後に登る山だ。入山する前は多くの資料を調査し、万全の体調で臨んだ。幌尻岳は奥地にあるので、アプローチが長く険しい道を行く。コースには額平川(ヌカヒラガワ)を左右に徒渉するので、雨で増水すると徒渉が困難で危険だ。

カーナビの案内で振内(ふれない)に着いた。車に寝泊まりするので食料を買った。幌尻岳駐車場に向った。道は目が眩むような絶壁が続く。「対向車が来たら」と思うと身が引き締まった。谷側には目を振れず、対向車が来ないことを願った。この様な悪路を一時間進み、やっこの思いで駐車場に着いた。交差する車が無く、運が良かったと胸をなでおろした。駐車場にはすでに二十台は止まっており、夕食の準備中だった。私が最後の到着だった。私が車を止めると、その脇は福島ナンバーの車だった。その方も私の車を見て、「福島からですか」と声を掛けてくれた。聞くと須賀川の方で、世の中広いようでも狭くも感じた。夕食を取り

ながら幌尻岳への情報を交換した。この方は明日幌尻岳に登り、幌尻山荘に泊まる予定でいた。私は始めから幌尻岳登山は、ピストンに決めていたので何のちゅうちよもなく明日に備えた。今日下山してきた方が情報を幾つか私に教えてくれた。

私は沢登りが初めてなので、とても不安だったが、日本百名山を踏破するには避けて通れない山なので、気合が入った。ただ、天気であることを祈った。夜は心配で時々目を覚まし快晴である事を中野不動さまにお願いした。(中野不動様には百名山踏破を祈願してある)谷間から見る空は満点の星空だった。

七月三日、零時頃から目を覚まし、天候が気になったが星空を見て安心した。午前一時なのに、須賀川の人は動き出した。ずいぶん早いなーと思いつながら様子を見ていた。間くと二時には出発するとの事だ。私も直ぐに用意し、朝食を詰め込み出発した。谷間の林道は真っ暗で、谷川のせせらぎが不気味だった。この道には熊さんが出ることを聞いており、寂しかった。ヘットライトは前方三メートル

を照らし、道以外には顔を向けなかった。ヘットライトを頼りに鈴を鳴らして暗闇に向って進んだ。約一時間で須賀川の方に追いついた。真っ暗な林道を二人で歩いた。一人でなく話しながら歩くので、熊さんの事は気にしなかった。こんな時、私のヘットライトの電池が無くなり暗くなってきた。しかし、あたりが少し明るくなり、我慢して歩いた。間もなく取水口に到着した。しかし彼はここで朝食を取るとの事だった。三時三十分、私はここで地下足袋に履き替え一人沢に入った。ここからは本格的な沢登りに入るが、まだうす暗いので標識が見難く川の流れも不気味だった。今回の徒渉は水量が膝上までの所が少なく、何とか渡れたが、まだ夜が明けきれない中で、もし流されたら大変と足の置場を確認しながら進めた。川の石は滑るので注意し、川幅が広く流れの緩やかなところを選んで渡り、次ぎの道標を探しながら徒渉を十数回繰り返した。徒渉のポインツは対岸の木の枝の赤いテープや石で積んだ道標を確認して進むことだ。今日は私が先頭なので、コースを探して進むし、前に歩いた人の足跡が無いのでとても不安だった。思うと、増水して

いたたり雨天の時は、中止するくらい余裕が必要と思

った。今回は天候にも恵まれたので、心配していたほど難しくはなかった。五時二十分幌尻岳山荘に着き、登山靴に履き替え地下足袋は小屋の隅に置かせてもらった。五時三十分小屋を後にした。小屋からはトドマツ・エゾマツの針葉樹林帯の中をジグザグの急登となり、尾根までは視界が無かった。小屋泊まり一番早いパーティーが十人くらい私の前を登っていたが、途中で追い越した。尾根が近くなるとタケカンバの樹林帯に変わり、左に戸蔭別岳と幌尻岳が青空にくっきりと見えて来た。尾根を暫く行くと「命の水」があり、水を補給して少し行くと樹林帯が切れ、視界のきくハイマツの尾根に出た。目の前には幌尻岳が見えた。その手前にカールが広がり、残雪もあつたが高山植物の綺麗なお花畑が見られた。登山道の回りにも花が咲き、今までに見たことがないほどの花だった。カールの縁を左に登ると、幌尻岳山頂の尾根に尖った岩場があり、そこからあたりを見まわしても人影はなかった。そこを過ぎると幌尻岳が目の前に迫って来た。別ルートから乗って来た人達が、私も先に登って下山を始めていた。急ぎ足で登り下山を留まってもらい、お願いして記念の写真を写してもらい、やっとな幌尻岳に来た

証が出来た。山頂には八時十三分に着き、山頂は風もなく快晴で視界が良かった。今回、昨日まで登ったトムラウシや十勝岳、大雪山・雌阿寒岳も視界の中にあるはずだが、見分けがつかず、あれだけの山を良く頑張ったなーと感激した。一番難所と思っていた幌尻岳の山頂に立つと感無量で、日本百名山踏破も終わったように嬉しかった。山頂は暫く私だけなので、暫くはひとりで待たされた。名残惜しいが八時四十五分下山することにした。帰りは花の写真を取ったりしながら、ゆ

っくりと足をすすめた。頂上まであと一時間はかかる所で、須賀川の河口さんに会った。彼はかなり疲れたようだった。しかし、幌尻山荘泊りなので、時間的には余裕がありそうだ。

幌尻岳の登りは辛かったが、命の水で休んだだけで頂上に立ったが、下りは楽で休まずに下山し山荘には十時四十分に着いた。地下足袋に履き替え、十一時には沢に入った。朝とは異なり、落ち着いて対岸の目印を探し難く取水口に到着した。十二時十八分だった。今度は地下足袋を履き替える時間がもったいなく、地下足袋のまま林道を歩いた。しかし、地下足袋は底が薄く足の底が痛かった。私は少しでも早く難所を立ち去りたい気持ちで急い

だ。午後一時四十五分やっどの思いで駐車場に着いた。急ぎ靴を履き替え、苦小牧に向った。途中で狭い林道ですれ違うのが怖く、なるべく早く逃げ出したかったからだ。車ですれ違う事もなくやっこの道に出たが、カーナビのセットを間違えて大変苦労した。苦小牧に着く頃から雨が降り出した。今回は、カーナビの案内で北海道の九峰の登山も無時に終わった。七月三日午後七時のフェリーに乗り、入浴しバイキングで美味

味しい肉など満腹になるまで食べた。思えば、幌尻岳は確かに登山に難度の高い山だが、徒渉が問題で、北アルプスの難度とは異なっている。夜中日を覚まし、北海道の九峰を踏破した喜びが込み上げ、何とも言えない達成感に満足し酔いしれた。残る百名山は、聖岳と光岳(テカリダケ)となった。七月二十七日には祈願達成の予定なので、武者震いがした。

だ。午後一時四十五分やっどの思いで駐車場に着いた。急ぎ靴を履き替え、苦小牧に向った。途中で狭い林道ですれ違うのが怖く、なるべく早く逃げ出したかったからだ。車ですれ違う事もなくやっこの道に出たが、カーナビのセットを間違えて大変苦労した。苦小牧に着く頃から雨が降り出した。今回は、カーナビの案内で北海道の九峰の登山も無時に終わった。七月三日午後七時のフェリーに乗り、入浴しバイキングで美



だ。午後一時四十五分やっどの思いで駐車場に着いた。急ぎ靴を履き替え、苦小牧に向った。途中で狭い林道ですれ違うのが怖く、なるべく早く逃げ出したかったからだ。車ですれ違う事もなくやっこの道に出たが、カーナビのセットを間違えて大変苦労した。苦小牧に着く頃から雨が降り出した。今回は、カーナビの案内で北海道の九峰の登山も無時に終わった。七月三日午後七時のフェリーに乗り、入浴しバイキングで美味

(終)